

ふしぎたいけん科学館

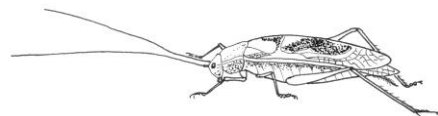
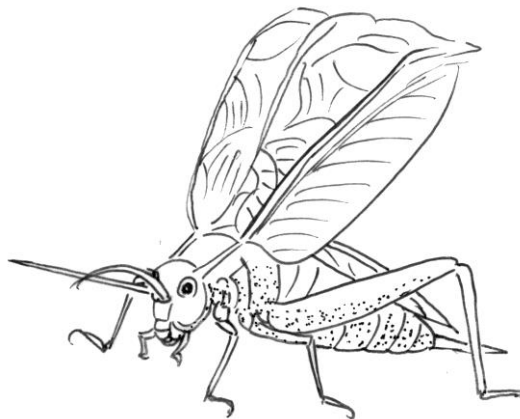
こども科学館リーフレット NO. 3 平成27年10月

なぜ? どうして? と考えることで科学の力が身につきます。

こども科学館で、たくさんのふしぎなことおもしろいことを体験して、かかっている科学について考えてみましょう。

ふしぎ 夏のおわりから秋にかけての夜、街中の公園や道ばたの木でかん高くリー、リーと大きな声で鳴いている虫は何でしょうか?

こたえ アオマツムシ



アオマツムシ (オス)

あざやかな緑色でメスは背中のもようがない

アオマツムシのなっているところ (オス)

木の高いところで鳴いているので姿を見るのはむずかしい

マツムシやコオロギなど鳴く虫のなかまで鳴くのはオスだけです。

羽をこすり合わせて音を出します。

アオマツムシは中国南部原産のコオロギのなかまの虫です。和歌山市でも2000年ころから街中のいたる所の木で「リー、リー」という大きい鳴き声が聞かれるようになり、今では「チッチロリン」という日本のマツムシなどの美しい虫の声にかわり、街中ではアオマツムシが秋の鳴く虫の主演となりました。

和歌山市立

こども科学館

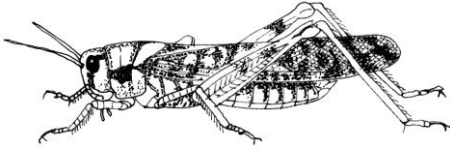
ホームページ <http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kodomo/>

〒640-8214 和歌山市寄合町19番地

電話 073(432)0002

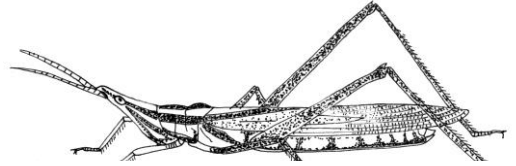
FAX 073(432)0004

和歌山県では1987年紀の川筋一帯でアオマツムシの分布が確認されています。2005年県内を調査したところ、和歌山市から橋本市までと和歌山市から御坊市までの街中や国道沿いの街路樹やガソリンスタンド、コンビニなどの木に分布していることが判明しました。街ではない自然地帯の草はらや森林には分布していません。日本のマツムシやクツワムシなどの鳴く虫が自然地帯に生息しているのとは大きな違いがあります。中国南部は、冬の最低気温は10度前後の亜熱帯性の気候です。日本のコンクリートやアスファルトに囲まれた街中や道路沿いは、暖かくて乾燥しており、アオマツムシの故郷の中国南部の気候と似ているのでしょうか。また、冬の夜も比較的暖かくてアオマツムシの卵での越冬が可能になってきたのでしょうか。日本の街中の環境がアオマツムシの生息に適しているので、アオマツムシが爆発的に増えたのです。日本の街に自然がなくなり、街路樹が増えたおかげで、アオマツムシが増えましたが、逆に日本の街中からはマツムシやスズムシ、キリギリスの仲間など秋の鳴く虫が少なくなりました。また、街中に自然の草はらがなくなっているのでバッタなどの昆虫も少なくなりました。



トノサマバッタ

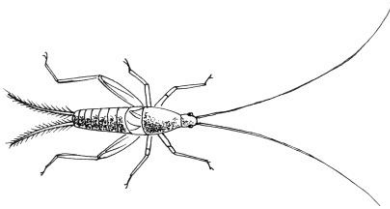
大きくて、バッタの代表のようなバッタ
街中の草はらでは、イボバッタ、オンブバッタ
やイナゴはいますが、ほかのバッタの仲間が少
なくなりました



ショウリョウバッタ

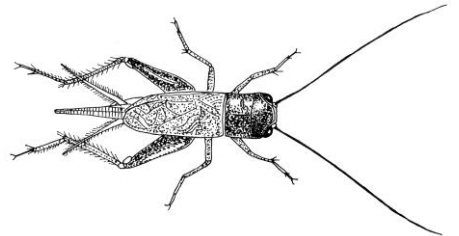
口から茶色の消化物の液を吐き出すので、よく「し
ょうゆバッタ」と言われます

ちんちんちんというカネタタキやりーりーりーというコオロギの仲間の鳴き声は街中でもよく聞かれます。



カネタタキ

体長9-15mmの小さい虫で、街中の庭や草は
らにいて、「ちんちんちん」というかねをたたく
ような声で鳴きます



エンマコオロギ

大きくて、顔を正面から見るとエンマ様のようなこわ
い顔をしている 家の庭にもよくいます